

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	ネッパランス
製品No.	3490-51018-0
会社名	酒井重工業株式会社 開発本部
住所	埼玉県川越市中福849
電話番号	049-256-4550
緊急時の電話番号	049-256-4550
FAX番号	049-264-2101
推奨用途及び使用上の制限	舗装機械全般へのアスファルト合材付着防止

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分3
健康に対する有害性	皮膚腐食性	区分2
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(麻醉作用)
	吸引性呼吸器有害性	区分1

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険
引火性液体及び蒸気
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
眠気又はめまいのおそれ

注意書き

【安全対策】

- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・容器を密閉し、取り扱い時にはこぼれないよう注意すること。
- ・熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。
- ・防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
- ・火花を発生させない工具を使用すること。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・保護手袋、保護眼鏡、保護具、保護衣を着用すること。
- ・屋外あるいは、換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

【応急措置】

- ・飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・皮膚に付着した場合:汚染された衣服を脱ぎ、多量の水で洗い流すこと。
- ・皮膚刺激がある場合:医師の診断/手当てを受けること。

・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

・火災の場合：消火には粉末、泡または炭酸ガス消火器を使用すること。

【保管】

・直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。

・容器を密閉し、保管場所に施錠すること。

・子供の手の届かない場所に保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：	混合物
化学名：	石油系炭化水素及び添加剤
成分及び含有量	
イソパラフィン：	70%
油溶性溶剤：	25%
添加剤：	5%
化学式又は構造式：	特定できない
官報公示整理番号(化審法)：	企業秘密のため記載できない
CAS No.：	企業秘密のため記載できない
PTPR法：	非該当
労働安全衛生法：	石油ナフサ 23.8～24.8 % (油溶性溶剤, 通知対象物質) ノナン 0.2～1.2 % (油溶性溶剤, 通知対象物質)
毒・劇物取締法：	非該当

4. 応急措置

目に入った場合	・清浄な水で15分以上洗眼し、医師の診断を受けること。
皮膚に付着した場合	・付着液を紙、布にて素早く拭き取り、大量の水及び石鹼又は皮膚用洗剤を使用して十分に洗い落とすこと。外観に変化が見られたり、痛みがある場合は医師の診断を受けること。
吸入した場合	・多量に蒸気・ミスト等を吸い込んだ場合、直ちに空気の新鮮な場所に移し、保温して安静にするように努め、速やかに医師の診断を受けること。
飲み込んだ場合	・無理に吐かせないで医師の診断を受けること。口の中が汚染されている場合には水で十分に洗うこと。

5. 火災時の措置

使用可能な消火剤	霧状の強化液、炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂 棒状の水を用いて消化してはならない。
消化方法	① 火元への燃焼源を絶つ ② 初期消火には、粉末、炭酸ガス、泡消化剤を用いる。 ③ 大規模火災の場合は、泡消化剤を用いて空気を遮断することが有用である。注水は火災を拡大し、危険な場合がある。 ④ 周囲の設備などに散水して冷却する。 ⑤ 消火作業の際には、風上から行い必ず保護具を着用する。 ⑥ 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
消火を行う者の保護	適切な保護具(耐熱性着衣、手袋、呼吸保護マスク等)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	全ての着火源を取り除く。 ① 作業の際、保護手袋、保護マスク、保護前掛け等を着用する。
------------	--

環境に対する注意事項

② 屋内で漏洩した場合は、窓・ドアを開けて十分に換気を行うこと。

① 少量の場合、おがくず、ウエス、砂、紙等を用いて吸着させ空容器に回収し、その後をウエス等で拭き取る。

② 多量の場合は漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして、人の立ち入りを禁止する。漏洩した液は、土砂等でその流れを止め、安全な場所に導いた後、できるだけ空容器に回収する。河川、下水道等に排出されないように注意する。

③ 海上の場合はオイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸着マット等で吸い取る。薬剤を用いる場合は、国土交通省令で定める技術上の基準に適合した物でなければならない。

**7. 取扱い及び保管上の注意
取扱い上の注意**

① 指定数量以上の危険物を取り扱う場合は、法に定められた基準を満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行うこと。指定数量未満の場合は、都道府県条例等に従うこと。

② 炎、火花、または高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。

③ 常温で取り扱うものとし、その際水分・夾雑物の混入に注意すること。

④ 静電気対策を行い、作業服、靴等も導電性の物を使用する。

⑤ 製品から発生した蒸気は空気より重いいため滞留しやすい。換気及び火気などへの注意をすること。

⑥ 危険物が残存している機械設備などを修理又は加工する場合は、安全な場所に置いて、危険物を完全に除去してから行うこと。

⑦ 適切な保護具（保護手袋、保護マスク、保護前掛け、ゴーグル等）を着用する。

⑧ 容器は必ず密閉すること。

⑨ 口で吸い上げるような事はしない。

保管上の注意

① 冷暗所で換気の良い場所に保管すること。

② 危険物の表示をして保管すること。

③ 熱・スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避けること。

④ 保管場所で使用する電気器具類は防爆構造とし、器具類は接地すること。

⑤ ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触や同一場所での保管を避けること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度
許容濃度
設備対策

既定なし

未設定

ミストが発生する場所は、発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。取扱場所の周辺に、洗眼及び身体洗浄のための設備を設けること。

保護具 呼吸器の保護具

通常必要とはしないが、必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を使用する。

手の保護具

長時間または繰り返し接触する場合は、耐油性手袋を使用する。

**眼の保護具
皮膚及び身体の保護具**

飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を使用する。

長時間取り扱う場合または溢れる場合には、耐油性の長袖作業服等を着用する。

その他

導電性安全靴を使用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状 形状	液体
色	透明(黄色)
臭い	僅かな臭気
pH	データなし
融点・凝固点	融点(流動点): -40.0°C以下
沸点、初留点及び沸騰範囲	初留点: 250°C以上
引火点	45°C(タグ)
自然発火温度	データなし
燃焼性(固体、ガス)	データなし
爆発範囲	0.5~5.0%(推定値)
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし
比重(密度)	0.77(g/cm ³)
溶解度	水 不溶
オクタノール・水分配係数	データなし
分解温度	データなし
粘度	データなし
粉じん爆発下限濃度	データなし
最小発火エネルギー	データなし
体積抵抗率(導電率)	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の保管及び取り扱いの条件において安定である。
危険有害反応可能性	通常の保管及び取り扱いの条件において特異な反応性はない。
避けるべき条件	加熱、炎、火花
混触危険物質	強酸化剤との接触を避ける
危険有害な分解生成物	情報なし

11. 有害性情報

急性毒性 経口	ラット LD50 15000mg/kg(石油ナフサ)
経皮	ラット LD50 3160mg/kg(石油ナフサ)
吸入	中枢神経に影響を及ぼすおそれ(石油ナフサ)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	知見なし
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	短い時間軽度な不快感を及ぼす(石油ナフサ)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	知見なし
生殖細胞変異原性	知見なし
発がん性	IARC分類 なし(石油ナフサ)
生殖毒性	知見なし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	知見なし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	知見なし
吸引性呼吸器有害性	知見なし

12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)	知見なし
水生環境有害性(長期間)	知見なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 ・都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 ・廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
-------	--

汚染容器及び包装

- ・本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
- ・容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
- ・空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

<p>国際規制 海上規制情報 航空規制情報 UN No.</p> <p>国内規制 陸上規制情報 海上規制情報 航空規制情報</p> <p>特別安全対策</p>	<p>知見なし 知見なし 知見なし</p> <p>消防法の規制に従う。 船舶安全法の規制に従う。 航空法の規制に従う。</p> <p>直射日光、水漏れ(雨水)に注意し、落下や転倒による容器亀裂・破損を生じないようにする。</p>
--	--

15. 適用法令

<p>労働安全衛生法 消防法 水質汚濁防止法 海洋汚染防止法 下水道法 廃棄物の処理及び清掃に関する法律</p>	<p>通知対象物質 第四類第二石油類(非水溶性)危険等級Ⅲ 油分排出規制(5mg/L 許容濃度) 油分排出規制(原則禁止) 鉱油類排出規則(5mg/L) 産業廃棄物規制(拡散、流出の禁止)</p>
--	--

16. その他の情報

参考文献

1. 許容濃度等の勧告(2015) 日本産業衛生学会
2. Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices, ACGIH(2000)
3. IARC MONOGRAPHS ON THE EVALUATION OF THE CARCINOGENIC RISK OF CHEMICAL TO HUMANS VOLUME 33
4. 化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS) 改訂9版 国際連合

※ 備考

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取り扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供される物です。
 取り扱う事業者は、これを参考として自らの責任において、個々の取り扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。
 従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。